

島道 米武 久古 ツーリズム

所在地

沖縄県島尻郡久米島町字仲泊730
TEL.098-985-2770
FAX.098-985-2833

ホームページ

kokyuutabi.com



「呼吸旅」～久米島アイランド道
「琉球古武道」×「癒し」！
島の魅力を存分に味わう
武道ツーリズム

体験可能な武道

琉球古武道



施設概要

- ・久米島の認知度拡大に向けた取組
- ・島とゆかりの深い古武道を活用した古武道ツーリズム
- ・時間がゆるやかに流れる「癒し」と、温かく島外の人を迎える「住民との触れあい」を組み合わせた久米島ならではの武道ツーリズムの形を目指す

受入開始時期ときっかけ

- ・ 2019年
- ・ 年間の来島者はおよそ11万人。島外在住の日本人やインバウンドにおける久米島の認知度は低い。ピークとなる夏場の閑散期の来島者を増やすことを目的として取組開始。
- ・ 古武道を広めた平良謙信氏の生まれ育った地であることを活かし、2019年に古武道の世界大会を開催したり、インバウンド参加型の古武道合宿を開催していた。そうした取組みに、「癒し」や「人と人との触れあい」を組み合わせた久米島ならではの魅力を組み合わせで来島者の増加につなげることが狙い。

受入実績 このような人たちが来ました

【FMくめじま】

- ・ モデル事業の中心。島内でも顔を知られているFM久米島の宇江城氏の人脈を活用することで、必要な主体の協力を取り付けやすく合意形成も早いと考えたため、FM久米島を中心として動くこととなった。狙い通り、FM久米島の認知度が高く、県民とのつながりができているため、合意形成には困らなかった。

【久米島文化協会】

- ・ 事業の受付や連絡窓口となっている

【吉本道場】

- ・ 武道体験の受入れ



絶景ロケーションで行われる琉球古武道体験



女性ターゲットを意識した食事とヨガ体験



島の様々な絶景スポットでの体験が可能

モデルツアーの概要

- ターゲットを2パターン設定。
 - 国内の女性。新型コロナウイルスの感染拡大後、いろいろなことに疲れて久米島を訪れる20～30代の女性が多い。
 - 武道に興味のあるインバウンド。沖縄本島には武道を目的としたインバウンドが一定数いる。
- 女性ターゲットも考慮し、武道体験もライトにして、楽しんでもらうことを最も重視。
- モニターツアーは3日間で久米島全体を体感してもらうことを重視。武道体験の場所は平良氏のお墓の近くの芝生。青空の下で気持ちよく体験。
- 1日目は久米島を感じてもらう内容とした。
- 食事の内容は久米島のモノを使ったヘルシーメニューなども提供。
- 2日目に武道体験メイン。

ツアーにおける武道体験の内容

- 2時間のプログラムで最初は古武道の説明。空手との違いなど10～15分程度。準備運動も少し行い、そこまでで30分程度。
- そのあと武具の体験。棒術、犀術、ヌンチャクの3種類、各30分程度の使い方までで2時間。
- 沖縄の伝統文化としての古武道を正しく伝える。
- 沖縄は琉球王朝時代に薩摩に支配された時代があり、その時は武器を持つことが禁止されていた。その際に自らを守るために、農業をする中で使う道具を武器として使うなどしながら隠れて鍛錬していた。鉄甲、ヌンチャク、トンファなどはそうした農具が改良されて武器となったもの。そうしたことを説明したうえで、実際に武器を使った体験を通して古武道のことを良く知ってもらえるようにしている。



初心者にも丁寧に指導

武道ツーリズム推進のポイント

【FM久米島中心の体制】

- 認知度が高く、島民とのつながりができているFM久米島を中心としたことでうまく進んだ面は大きい。FM久米島を介して関係者間同士がこれまで何年、何十年とコミュニケーションをとってきた信頼感があるため、お互いを信頼でき、合意形成には困らず、事業が始まってからの動きもスムーズであった。

ツアー造成のポイント

- 久米島は山、海があり平地も広くないのでマイナスイオンが多い島。
- 癒しや、温かく来島者を迎える島民との触れあいも魅力。武道に偏らず、そうした久米島ならではの良さを感じることができる。
- 武道体験も含め、島全体の魅力を体験できることが久米島における琉球古武道ツーリズムのウリ。

参加者にはこれが喜ばれました！

- 海が見えるロケーションで、開放感を感じながら体験できた。
- 道着のレンタルによって、SNSで発信したくなる様な写真が撮影できた。
- 島の人の触れ合いで、あたたかさを感じ、また会いにきたいと思えた。
- 体験中に上達し、達成感を感じることができた。

今後に向けた課題

【インフラ整備】

- 観光客が増えた時のために整理しなければいけないものはホテル、交通などインフラ関係。
- 宿泊施設の不足は民宿の減少が要因。
- 交通は特にタクシーの少なさ。
- さらに来島のピーク時には居酒屋など飲食店も不足し、せっかく来島してくれたのに店に入れずコンビニで買って宿泊施設で食べるというケースも少なくない。
- インバウンド向けの案内表示も少ない。

【道場関係者のスケジュール調整】

- 道場関係者のスケジュール調整。本物の演武が喜んでもらえるポイントの一つ。そのために吉本道場の弟子4～5名の協力が必要だが、そうした協力者の時間を合わせる事が難しい。

【連携体制、受入体制】

- これまで島内に旅行会社がなかったことで受入体制に課題があった。新しく旅行会社が出来たため体制整備された面はあるが、インバウンド向けの通訳確保は引き続き課題。

今後の方向性

- 沖縄空手の一つとして打ち出すよりも、やはり琉球古武道という打ち出しで沖縄空手とは差別化を図る方向で検討中。
- 琉球古武道の小冊子を作成した為（日本語版、英語版）
- 座学も取り入れて、より理解度を高めてもらう。
- 沖縄はリゾート地、久米島は癒し。山、海があり平地も広くないのでマイナスイオンが多い島と言われている。そのため、武道に偏らず久米島の魅力をどう伝えるかが大きなテーマ。

宮 崎 県

所在地

宮崎県宮崎市橋通東 2-10-1
TEL.0985-26-7111 (窓口案内)

ホームページ

www.pref.miyazaki.lg.jp



“剣道を通して宮崎を知る”

体験可能な武道

剣 道

施設概要

- ・ フランス代表チームの受入れをきっかけに取組開始
- ・ 宮崎県の“宝物”をつなげたツアーを造成
- ・ 武道体験は「竹刀の持ち方の意味」から伝えるなど、特に剣道経験者にとって魅力的な内容に

取組(モデル事業応募)のきっかけ

- ・ 2019年
- ・ 宮崎県は九州の他県と比較してインバウンドの来訪が少ない。インバウンドに来てもらうためにどうしたらよいか思案するなかで、武道は外国人に人気であるという理由から検討対象となった。
- ・ そうした折、2018年に剣道のフランス代表チームが宮崎県で合宿を希望して受け入れたことを契機として本格的に取り組むこととなり、2019年にスポーツ庁、2020年に観光庁のモデル事業として採用されて取組を推進。

連携主体

- ・ 2019年度に宮崎県、宮崎県観光協会、日本武道宮崎(NBネットワーク)、JUJUトラベルによる「ひなたMIYAZAKI武道ツーリズム推進協議会」を設立し、取組を開始

【宮崎県、宮崎県観光協会】

- ・ モデル事業の応募、関連主体の取りまとめ

【日本武道宮崎(武道用品メーカー)】

- ・ 道場の協力取り付け、モニターツアー参加者の手配、アテンド・通訳

【JUJUトラベル】

- ・ 移動バスの手配等



モデルツアーの概要

- ・「剣道を通して宮崎を知る」をテーマとした3泊4日のツアー。
- ・そこに神話で有名な高千穂、宮崎ならではの宝物をつなげたプラン

ツアーにおける武道体験の内容

- ・武道体験の前に、剣法発祥の聖地である鶴戸神宮に観光もかねてお参りに行き、「無事に合宿が終わるように」という願いをかける。それから礼儀の部分を教えた上で協力道場に行き体験してもらう。
- ・体験は90分
- ・内容は本物の剣道を教えることこだわった。例えば竹刀の持ち方について、そのように持つ意味から伝えるなどしている。
- ・試し切りも組み込んだ。高段者ほど、竹刀という丸みを帯びたもので切ることになってしまっており、刃筋の立ったもので切ることが難しくなる。ただ、これでしっかりと切れることが竹刀の打突力向上にもつながる。そうした意味を伝えて真髓を体験できる内容とすることで、特に高段者にとって魅力的な内容としている。
- ・礼儀作法も重視。剣道は致命傷を与えるもの。そうしたなかで「教える・教わる」というのは信頼関係が必要であり、そのために礼儀作法が大切なのだということを伝えている。危険なことをするからこそ礼儀作法が重要だと伝えている。人間関係を作るためにも、そうした作法や所作が重要だと伝えている。

武道ツーリズム推進のポイント

【モデルツアー参加者は“宮崎未体験の人”に声掛け】

- ・スポーツ庁モデル事業で実施したモニターツアーでは、フランスからの参加者の回とASEAN諸国からの参加者の回と各1回ずつ実施。
- ・フランスは、ヨーロッパの中でも一番剣道人口が多いため波及効果を期待したため。ASEANは日本武道宮崎とのつながりから。
- ・どちらも、剣道経験者でアーティストや料理人、剣道の先生など様々な人に声かけ。宮崎県を訪れた経験がない人を集めて実施した。
- ・ツアーの魅力、宮崎の魅力について客観的に判断してもらうことが重要と考えていたため。

ツアー造成のポイント

- ・「道」をキーワードとして、人としての学びが得られる体験をつなげたことがポイント。
- ・人間形成につながる体験をつなげることができた。
- ・宮崎県の武道ツーリズムの「ウリ」はそうした深さにある

参加者にはこれが喜ばれました！

- ・武道とツーリズムを合わせたものとしては、武道に興味ある方にツーリズムのドアを開けるという意味でもよいアイデアだと思いました。
- ・剣道は単なる勝負ではなく、マナーや態度を学ぶことだと多田先生から教えられました。
- ・霧島酒造に行き、焼酎が作られる過程を見ることができ、とてもエンジョイしました。焼酎を飲まない私でも満喫できました。

今後に向けた課題

【剣道以外の武道への展開】

- ・剣道メインで進めてきたが、それ以外の武道にどのように広げていくか。居合道や杖道に加え、都城市が大弓の生産日本一であるため弓道にも広げたい。
- ・鶴戸（うど）神宮は拳法発祥の地と言われているので、そうしたものを活かすことも検討中

【宮崎県特有の課題】

- ・土地が広いと移動時間が長くなる。標識も外国人にとって分かりやすいとは言えない。そのため、外国人にとって移動の利便性が低い。まだまだ受入のためのインフラ整備が必要とは感じる。

【民間による自走】

- ・これまでのところ行政主導であるが、ツーリズムは民業のため、民間による自走化が必要。

今後の受入のためにこんなことやってます

- ・国の補助事業で作成した予約システムのプロモーションを実施し、本県の武道ツーリズムのことを知ってもらう必要がある。
- ・宮崎県として5S（スポーツ、神話、自然、森林、食）をキーワードに観光を進めている。そのうちスポーツが武道だが、神話とも親和性が高い。また、食なども絡めていき、そのストーリー性を高める。

鳴門市



所在地

徳島県鳴門市撫養町南浜字東浜 170
TEL. 088-684-1300
FAX. 088-684-1309

ホームページ

narutosc.jp/tourism/



「多様な武道」に「独自の文化体験」を組み合わせた鳴門ならではの武道ツーリズム

体験可能な武道

柔道・剣道・空手・弓道・
合気道・少林寺拳法



第1回・第2回のモニターツアーとも柔道・空手・合気道・少林寺拳法の4種目について体験を実施

施設概要

- ・市内で活動する武道団体の協力のもと、多様な種目から選択できる武道体験と、お遍路など地域特有の文化体験を組み合わせ、鳴門市ならではのオリジナリティの高い武道ツーリズム造成を目指す
- ・日本文化に興味のある外国人観光客をはじめ、スポーツ合宿におけるクロストレーニングや教育旅行との組み合わせなど、様々なケースに対応できる受け入れ体制の構築を目指す。

取り組みのきっかけ

- ・2021年3月、NARUTOスポーツコミッションを立ち上げ、スポーツ大会・合宿の誘致・開催、スポーツイベントの誘致・開催、スポーツ関連産業の創出、スポーツツーリズムの推進を取り組みの柱に設定。
- ・鳴門市の観光資源を活用し地域振興につなげるため、スポーツ庁の定めるスポーツツーリズムに係る重点事業のうち鳴門市で実施可能なものを検討した結果、武道ツーリズムに関する取り組みを開始。

受入実績 このような人たちが来ました

- ・2021年8月にNARUTOスポーツコミッションが主体となり、武道ツーリズム研究会を立ち上げた。参加団体と役割は以下の通り。
 - 【市内の武道団体】
武道体験の受入れ。（6種目7団体が参加）
 - 【市内観光事業者】
お遍路体験や酒蔵見学など文化体験対応（2社が参加）
 - 【鳴門市観光協会】
観光協会が認知している観光トレンドやコロナ禍の動向に関する情報提供、文化体験の事業者との調整等
 - 【観光振興課】
市内の観光資源を武道ツーリズムにリンクさせていくための方向性について、意見とアイデアを提供。



お遍路体験では実際にお遍路の恰好をして参拝



酒蔵見学では「本家松浦酒造場」蔵元自ら日本酒造りの歴史を説明



NARUTOスポーツコミッション
ポスター・ウェブサイト

モデルツアーの概要

- ・柔道・剣道・空手・弓道・合気道・少林寺拳法という多様な武道と、古くから地域に根付く文化体験として、お遍路体験、酒蔵見学、瞑想体験を組み合わせた。
- ・13:00～18:00で実施。先に武道体験をしてから文化体験とした。あくまでメインが武道体験であるということに加え、時間の融通が利きづらいという点で武道を先にした。
- ・令和3年10月に1回目のモニターツアーを実施。マイクロツーリズムのモデルケースとして市内の小学生とその親を対象とし、武道体験と瞑想体験・酒蔵見学を実施。
- ・2回目は、令和4年11月にインバウンドのニーズを捉えるためのモニターツアーとして、鳴門教育大学の留学生と市教育委員会所属のALTを対象として実施。武道体験とお遍路体験・酒蔵見学を実施。

ツアー造成のポイント

【多様な文化体験との組み合わせ】

- ・市内に各種武道の施設があるものの、発祥の地などと比較して武道との関連性が高いとは言えない。
そのため、単独種目に絞るのではなく多様な体験をできるようにした。コア層よりもライト層の誘客を目指していきたい
- ・それでも武道体験だけで差別化は難しいため、お遍路体験、酒蔵見学、瞑想体験という文化体験も組み合わせ鳴門市ならではの武道ツーリズムを目指す。
- ・文化体験は概ね好評であったが、組み合わせる体験内容についてはいろいろな可能性があると感じる。
既存の観光資源（大谷焼作陶体験・藍染体験など）やなると金時やレンコンの収穫体験などと組み合わせることで多様なニーズに対応できるようにしていきたい。

モニターツアーにおける武道体験の内容

各種目とも実際に指導する団体と相談し、以下の内容とした
1回目は60分×2種目で実施したが、指導者からの時間が短いという意見と参加者の体力的負担に配慮し、2回目は90分×1種目とした。

- ・各武道についての説明（歴史、礼の作法など）
- ・基本となる体の動かし方（空手であれば突きなど）
- ・指導者による演武
- ・武道ごとにミット打ちや防具を着用しての組手、技の指導など

参加者にはこれが喜ばれました！

- ・武道を見たことはあるが自分でやったことがなかったので、自分が身体を動かす形で参加できたこと、また、礼や作法など武道特有の空気感に触れることができたことを喜ぶ声が聞かれた。
（モニターツアーの後実際に武道を習い始めた方もいた。）
- ・文化体験についても、お遍路体験は特有の衣装の装着、酒蔵体験は日本酒の製造過程の説明や試飲が喜ばれた。日本酒は知っていても飲んだことがないという人も多く、試飲してお土産に買って帰る人もいた。



第1回武道ツーリズム研究会の様子



徳島新聞記事

武道ツーリズム推進のポイント

【武道団体の協力取り付け】

- ・武道団体の協力がなければ始まらないため、その協力を取り付けることが最も必要。ただ、団体担当者においても「武道ツーリズム」についてよく分からないという人が多かったため、各武道団体に対し、武道ツーリズムの概念から説明した。
- ・特に、「スポーツを通じた地域活性化の手段のひとつとしてスポーツツーリズムに取り組んでおり、武道体験と文化体験を組み合わせた鳴門ならではの武道ツーリズムを構築したい」という意図を説明。
その趣旨に賛同してもらった団体に武道ツーリズム研究会に参加してもらうことができた。
- ・武道団体としても旅行者が主たる対象であることから門下生の増加など直接的なメリットが少ない中ではあるが、各種目の普及に加え、武道自体のPRにつながることを期待できるとして賛同いただけた。逆に言えば、普段から武道自体や各種目のPRができていないと感じているようであった。

今後に向けた課題

【体験内容の磨き上げ】

- ・モニターツアー参加者は未体験者のみであったが、それでも少し簡単すぎるという声も聞かれた。最適な運動強度、内容について今後も精査していく必要がある。

【受入態勢】

- ・指導者のスケジュール確保は大きな課題。鳴門に来て武道ツーリズムの存在を知り、やってみたいとなっても即座に指導者を確保することは難しい。ホームページ等で事前予約ができるシステムの構築が必要。また、自前の道場がなく自治体や学校の施設を借りている団体もあり、その場合は場所についても市側で用意する必要がある。

【旅行会社の協力を得るためのハードル】

- ・旅行会社の協力を得るためには商品価値があるとみなしてもらおうためのレベルに持っていく必要がある。また、上述の受入の不安定さを解消できないと旅行会社としても商品案内をしづらいという面もある。

今後の方向性

- ・多種目で実施しているため、各武道ごとの指導手法やタイムスケジュールにおいてある程度の同一性を保つ必要がある。品質を担保するために各武道団体ごとにヒアリングを行い、体験を行う際のマニュアルとなる各武道ごとのベーシックプログラムを策定する。R4年度はテストケースとして少林寺拳法のベーシックプログラムを作成し、今後これを基に他団体についても制作を進める。



令和 4 年度 スポーツによる地域活性化・まちづくりコンテンツ創出等総合推進事業

別添資料 武道ツーリズム取組事例集

令和 5 (2023) 年 3 月

スポーツ庁